

今年初めてのガザミ種苗の出荷

ガザミは、全国有数の漁獲量を誇る岡山の重要魚種である。水産研究所では、昭和53年から種苗生産を実施しており、24年度も5月5日より生産を開始した。

ふ化直後のガザミはゾエア幼生と呼ばれ、親とは似つかない姿をしている（写真1）。その後、3～4日おきに脱皮を繰り返し、メガロパ幼生を経て約20日間で甲幅5mm程度の稚ガニへと成長する（写真2）。

5月25日、今年初めての種苗の出荷を行い、約250万尾を取上げた（写真3）。

取上げられたガザミは、瀬戸内市邑久町にある尻海中間育成場（写真4、面積：11,000㎡）で、より自然に近い環境で約10日間飼育され、甲幅15mmで県内各地の海に放流される。放流されたガザミは今年の秋には漁獲され、皆さんの食卓にのぼることだろう。（資源増殖室：後藤）



写真1 ゾエア幼生



写真2 稚ガニ



写真4 尻海中間育成場



写真3 ガザミ取上げの様子